

## 1. 授業のねらい・概要

よい授業を形成している要因を理解し、授業づくりの基礎・基本を修得できるようにする。また、授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、発問・指示・説明などの教授行為等）や学習モデル（アクティブ・ラーニング型の学習指導等）、教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学習形態、教育工学、情報機器の操作・活用等について理解できるようにする。

## 2. 授業の進め方

- A「授業づくりネタクイズ」（できるだけ毎回）、B「教育方法学の基本概念」、C「実際の授業づくり」（B、Cについては並行して扱う）の3本柱で構成。常時、パワーポイント、OHC、DVDなどを活用する。
- 適宜、「授業づくりネタクイズ」を通して、授業づくりについて具体的に考えることができるようにする。

## 3. 授業計画

|                                                                                     |                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 教育方法論・そのプロローグー学生・生徒に培うべき<br>資質・能力と「教育方法論」○×クイズー                                  | 多様化の原理ー（T）                                                                                              |
| 2. B：教育内容と教材Ⅰー教材とは、教育内容とはー<br>（パワーポイント資料等使用、以下「P」と略）<br>C：「授業力」の上達（テキスト使用、以下「T」と略）  | 9. B：系統学習モデルと経験学習モデルⅡー問題解決<br>学習ー（P）<br>C：個を生かす指導原理ⅢーA T I 研究ー（T）                                       |
| 3. B：教育内容と教材Ⅱー区別する論理・意義と教材観・<br>児童観の転換ー（P） C：教育現場における俗説と理<br>念だおれの研究Ⅰー俗説と疎外要因ー（T）   | 10. B：発見学習モデルと一般的な教授・学習過程Ⅰー<br>問題解決学習と発見学習、及びアクティブ・ラーニン<br>グ型学習ー（P）<br>C：「授業崩壊」の要因と遠因Ⅰー教師の力量の問題<br>ー（T） |
| 4. B：教材と教授行為Ⅰー授業Aと授業Bとで考えるー<br>（P） C：教育現場における俗説と理念だおれの研究<br>Ⅱー理念と理論の混同ー（T）          | 11. B：発見学習モデルと一般的な教授・学習過程Ⅱー<br>一般的な教授・学習過程ー（P）<br>C：「授業崩壊」の要因と遠因Ⅱー子どもの変容と家<br>庭教育ー（T）                   |
| 5. B：教材と教授行為Ⅱー教授行為と授業の成立ー（P）<br>C：子どもの育ちをいかに援助するか（T）                                | 12. B：学習指導に生かす教育工学Ⅰーメディアリテラ<br>シーと教育方法ー（P）                                                              |
| 6. B：発問、指示、説明とはⅠー「発問」とはー（P）<br>C：活動を主体化させる授業改革（T）                                   | 13. B：学習指導に生かす教育工学Ⅱー教育におけるコ<br>ンピュータ利用ー（P）                                                              |
| 7. B：発問、指示、説明とはⅡー「指示」、「説明」ー（P）<br>C：個を生かす指導原理Ⅰー多様性・妥当性・有効性と<br>ゴールフリー・活動の多様化の原理ー（T） | 14. B：学習指導に生かす教育工学Ⅲー教育におけるイ<br>ンターネット利用とICT活用の工夫・情報倫理ー（P）                                               |
| 8. B：系統学習モデルと経験学習モデルⅠー形式的教<br>授段階説ー（P）<br>C：個を生かす指導原理Ⅱー個人差重視・指導方法の                  | 15. 教育方法論・そのエピローグ                                                                                       |

## 4. 到達目標

- 1 授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、教授行為等）について理解できる。
- 2 学習モデル（アクティブ・ラーニング型学習等）及び教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学習形態等について理解できる。
- 3 教育工学、情報機器の操作・活用、ICT教材作成等について理解できる。

## 5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

- 次回の該当箇所（印刷テキスト及び書籍テキスト）をよく読んで、ノートにまとめておく。
- 印刷テキストの穴空き箇所について、該当すると思われる語句を自分なりに考えて、記入しておく。
- 授業を振り返り、要点をノートにまとめておく。

## 6. 成績評価の方法・基準

期末試験            60%    (筆記試験, 被教育者としての体験授業の分析レポート)  
授業への参画度   40%    (授業への参加・参画度, 貢献度, 参加・参画態度, 発言内容, コメント用紙等)

## 7. テキスト・参考文献

[テキスト]

- (1) 池野正晴『教育方法学の基本概念等』(自作印刷冊子, 配付)
- (2) 池野正晴『新しい時代の授業づくり』(実際の授業づくり), 東洋館出版社

[参考文献]

- (1) 佐藤学『教育の方法』, 左右社
- (2) 中川・苑編『メディアと学校教育』, 放送大学振興会
- (3) 水越敏行他『これからの教育とメディアの教育』, 図書文化

## 8. 受講上の留意事項

対話形式を重視し, 「その場に居て事例等について実際に考え, 話し合いに参加する」ことを大事にしたい。「教師になる」という当事者意識をもって参加・参画する。